

全国ネット通信

2019 冬号 Vol.33
平成31年1月発行

キリバス：気候変動問題のカナリア

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 長谷川公一



みなさま、新年明けましておめでとうございます。平成最後の新年です。

昨年11月11日から16日まで「みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)」の仕事で、キリバス共和国を訪問してきました（写真は、同国環境大臣と談笑した折のものです）。

首都タラワは、海拔1~2メートル程度の平らな環礁です。気候変動による海面上昇によって、最悪の場合、21世紀後半には人が住めなくなってしまうのではないか、と予測されています。海面上昇に対して逃げ場がないのです。海岸線の侵食・後退、雨期の短縮・干ばつ、井戸水が塩辛くなっているなど、気候変動の影響は既に顕在化しています。

もう一つ興味深かったのは、現地に流れる時間の重層性です。昔ながらのパンダナスの葉っぱで葺いた小屋のような家、ハンモックでの昼寝、海と一体となった生活。他方で海岸で目立つのはプラスティックゴミや家電ゴミです。消費文明の荒波がサンゴ礁の島にも押し寄せています。先進国この150年間が凝縮して、島のここかしこに同時に点在し・併存しているかのようです。

気候変動問題が年々深刻化するなかで、この島でいつまで安全安心に暮らせるのか。キリバスは30年後・50年後の日本を、地球の未来を、炭鉱夫が鉱山に持ち込むカナリアのように先取りし、警告しているとも言えます。

現地の若者たちとの交流を締めくくる際に、私が、"Make the Earth great again! (地球を再び偉大にしよう)、Make small islands great opportunity to survive! (小さな島々に存続の機会を)" と言うと、現地の環境団体の事務局長は、"Make Kiribati great for the whole world!" と返してくれました。「地球全体のためにキリバスを救おう」という素敵な言葉です。キリバスが直面する問題から私たちは何を学ぶのか。私たちの学習能力が問われています。

いつも足元と地球全体を結び付けて、考え方行動する年にいたしましょう。

年頭のごあいさつ

環境省 地球環境局長 森下 哲



あけましておめでとうございます。昨年は夏の豪雨や酷暑をはじめ、極端な気候現象が頻発しました。こうした異常気象は、世界中で起こっています。地球温暖化が進行した場合、異常気象の発生するリスクはさらに高まると考えられており、気候変動への対応は一刻の猶予も許されない状態です。

すでに世界は大きく動き出しています。昨年12月にポーランドで開催されたCOP24では、2015年に採択されたパリ協定を実施に移すための行動指針が採択されました。今後は、国家間交渉から協定の確実な実施へと、気候変動対策が転換していくこととなります。

同会議では、原田環境大臣による議長国議長をはじめとする関係閣僚との直接交渉をはじめとして、交渉の妥結に向け我が国は大きく貢献しました。また、直近のデータ（速報値）では過去4年間連続して温室効果ガス排出量の削減を達成していることや、いぶき2号の打ち上げ成功による温室効果ガスデータの提供、我が国発イニシアティブである地域循環共生圏の推進など、我が国の取り組みにつき情報発信を行っています。引き続き、気候変動対策の分野において世界に対してリーダーシップを発揮してまいります。

2019年は、パリ協定長期成長戦略の策定、海洋プラスチックごみ対策など、大きなチャレンジが待ち構えています。6月28~29日には大阪でG20サミットが開催されますし、6月15~16日には、G20でははじめて、環境を冠した閣僚会合が長野県軽井沢町で開催されることも決まっています。世の中を脱炭素型・持続可能型にシフトさせていくためには、あらゆる関係者の連携が不可欠であり、引き続き関係各位の皆様とともに、全力で取り組んでまいります。

COP24報告

COP24は、ポーランドのカトヴィツェで2018年12月2日～15日に開催されました。今回の会合の主要な目的は、2016年に発効したパリ協定を2020年から着実に実施するための実施指針に合意することと、タラノア対話を通じて各国がパリ協定の目標の達成に資するような優良事例を共有することでした。

まずパリ協定の実施指針については、先進国や途上国といった立場を乗り越え、先進国と途上国の二分論になることなく、すべての国に共通に適用される実施指針が策定できました。

また、タラノア対話では、各国の閣僚等が円卓会議を行い、IPCC1.5°C特別報告書も踏まえ、リーダーシップと政治的機運の継続・高まりが重要であることなどが共有されました。

日本からは原田環境大臣が参加し、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」による貢献や、日本が4年連続で温室効果ガス排出量を削減している実績、さらに「環境と成長の好循環」の地域における具体的な実践である「地域循環共生圏」という将来ビジョンを発信し、パリ協定の目標達成に向けた日本の決意や世界に対する貢献についてアピールしました。

さらに、ジャパンパビリオンにおいて、「日本の気候変動対策支援イニシアティブ2018」をはじめ、我が国の様々な主体の参加も得て、取り組みや貢献を紹介するイベントを多数開催いたしました。

日本としては、今回合意された実施指針も踏まえ、世界の脱炭素化を牽引するとの決意の下、骨太な長期戦略の策定等を通じて国内での大幅削減を目指すとともに、今回発信した国際協力の着実な実施により世界全体の排出削減に貢献したいと考えております。

【文・写真】環境省 地球環境局 国際地球温暖化対策担当 参事官室



原田環境大臣の政府代表ステートメント



ジャパンパビリオンの様子



「COOL CHOICEガイドブック」を公開しました！

全国ネット通信前号でお知らせしておりました「COOL CHOICEガイドブック」が、12月に完成しました！

この冊子は、2015年からスタートした、環境省が推進する国民運動「COOL CHOICE」について、家庭での実践を応援するためのガイドブックです。そもそも「COOL CHOICE」ってなに？という方から、地球温暖化問題について知りたい方、COOL CHOICEを実践したい方など、幅広い方々にご活用いただける内容になっています。

例えば「COOL CHOICE」の取り組みの中には、省エネ家電への貢換えや、省エネ住宅の購入、断熱リフォームを推進するものがあります。ですが、多くの方は「うちの家電はまだ使えるから大丈夫」とか、「高いからうちではムリ」など、検討すらされない方が多いかと思いますが、実はそれって「もったいない」んです。それに、実践することで、普段の生活を豊かにするいろいろな「メリット」があるんです。

その他にも、お金をかけずに簡単な工夫をするだけで、地球温暖化対策につながるだけでなく、日々の生活を豊かにするような、さまざまな「COOL CHOICE」を紹介しています。全国センターホームページでPDFファイルを公開していますので、気になった方はぜひ、ご一読ください！



[COOL CHOICE ガイドブック](#)

検索

今年も見せます！地域センターの活動実績！

地域センターは、地球温暖化対策に関する普及啓発活動等を行う拠点として、全国でさまざまな活動に取り組んでいます。

そんな地域センターの活動実績を、数字で見える化しよう！という主旨で始まった「地域センター活動集」を今年度も制作します。内容は、前年度の地域センターの活動実績のご紹介と、具体的な活動紹介で構成する予定ですが、特に、地域で実践されているCOOL CHOICEの普及啓発に関する事例を中心にご紹介したいと考えています。地球温暖化対策の一環として、地域でCOOL CHOICEを推進したいけど、どういったことをやれば良いかわからない、といった地方自治体や民間団体の皆様向けに、地域センターと連携することによって実践できる具体的な取組事例をご紹介します。

2019年3月の完成目標に作成中です。

完成次第、全国センターホームページでお知らせします！

平成29年度に地域センターが実施した活動の実績

地球温暖化に関する情報を発信し、受け取ったと思われる人数

延べ約 **36,300,000** 人※

地球温暖化に関する普及啓発の場に動員した人数

延べ約 **2,700,000** 人

※ラジオを通じた情報発信数については、リスナー × 発信回数で計算しているため、数が多くなっています

地域で活躍する方々が環境大臣表彰を受賞！

地域で精力的に地球温暖化防止活動を推進されている、地域センター、地域センター関係者、推進員の皆様が昨年12月3日（月）に平成30年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞されました。皆様から受賞に際してのメッセージをいただきましたので、下記にご紹介します。

桑野恭子様（大分県）、勝井明憲様（茨城県）、丹後の豊かな環境づくり推進会議様（京都府）、平本善昭様（神奈川県）、グリーンカーテンプロジェクトinしばた実行委員会様（新潟県）、エコネットかまがや様（千葉県）、エネルギー・環境子どもワークショップin川崎 実行委員会様（神奈川県）
※写真左から



今回の受賞は、今まで活動にご協力いただいた皆様のおかげだと思っております。受賞会場では、全国各地の取り組みを拝見させていただき、とても勉強になりました。地球温暖化防止に貢献できるよう、今後も地道に活動を続けて参りたいと思います。
桑野恭子 様

温暖化防止対策には、行政と市民が協働することが実効性のある取り組みとなります。受賞を機に、立ち上げた協働の仕組みがより機能するよう、気持ちを新たに取り組みます。また次代を担うこどもたちに対する環境教育にこれまで以上に取り組むつもりです。
勝井明憲 様

栄誉ある環境大臣表彰を拝受し大変光栄です。地域住民と行政との協働による持続可能な地域づくりに向け、子ども達と一緒に地域の自然・文化・歴史を学んで参りました。今後も地域産業とも調和の取れた地球温暖化防止活動に取り組んで参ります。
丹後の豊かな環境づくり推進会議 様

神奈川県は2030年には（2013年比）27%排出量削減を目指すと掲げています。茅ヶ崎市温暖化対策推進協議会委員、推進員として、COOL CHOICEを始め、身近な生活でできることや、さまざまな最新情報・助言を市民に伝えてまいります。
平本善昭 様

グリーンカーテンは、誰でも参加できる身近な取り組みです。今回の受賞を励みに、市民の皆様を楽しく巻き込んでいけるような仕組みを常に考え、グリーンカーテンと温暖化防止の普及啓発に取り組んでまいります。
グリーンカーテンプロジェクトinしばた実行委員会 様

栄えある表彰の緊張のなかで、喜びと感動を頂きました。地域で活動を継続できたのは、多くの人の支えと励ましがあったからだと感謝でした。この小さな地域から温暖化防止を呼びかけ、その輪が広がるよう、気持ちを新たに、活動を継続していきたいと考えています。
エコネットかまがや(西川) 様

かわさき教育プランのキャリア在り方生き方教育の考えを取り入れ、ふるさと川崎への愛着やシビックプライドを醸成する川崎ならではの地域に根ざしたエネルギー環境教育を、これからも全国に発信していきます。
エネルギー・環境子どもワークショップin川崎 実行委員会 様

このたびは、誠におめでとうございます！

地球温暖化 大臣表彰

検索

「低炭素杯2019」絶賛！！来場者募集中～！

このたび、9回目を迎える「低炭素杯2019」では、「学生部門」「ジュニア・キッズ部門」「市民部門」「企業・自治体部門」の4部門へ、全国から1,425団体のエントリーがありました！

この中から、書類審査を通過し、ファイナリスト28団体が決定しました。当日はファイナリストに、その取り組みをステージで披露して頂き、厳正な審査のうえ、各賞が決定されます。

どの団体が日本一に輝くのか、その瞬間をぜひ！会場でご覧ください。

また今回のステージプログラムでは、最近テレビ等のメディアでもご活躍の生き物の先生！五箇公一さん（国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長）をお呼びして、基調講演を行います！

さらに会場は「第11回川崎国際環境技術展」とコラボ開催しますので、イベント満載！！

ぜひとも、2019年2月8日（金）「カルツツかわさき」へお越しください！

現在、来場者募集中です！また「オーディエンス賞」を決定する投票に参加できる「ゲスト審査員」も併せて募集しています！

申し込みは公式ウェブサイトよりお願いいたします！

皆様のご来場を心よりお待ちしております！

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/visitor>

低炭素杯

検索



低炭素杯2019
プログラム

開催日：2019年2月8日（金）

会 場：カルツツかわさき

（神奈川県川崎市川崎区富士見1-1-4）

09:30～ 開場/受付開始

10:00～ 開会/オープニング

10:12～ 13:00 ファイナリストプレゼン発表

13:30～ 15:00 基調講演：五箇公一先生

15:20～ 16:30 表彰式/閉会



基調講演 13:30～15:00

教えて五箇先生！
「地球温暖化による生物リスク」



最近メディアでよくお見かけする五箇先生に、地球温暖化による生き物の変化や、私たちの暮らしへの影響などについて、わかりやすくお話をいただきます。

質疑応答時間もあるので、直接、五箇先生に質問できます！

これは観なきや損ですよ！



「フォーカスSDGs」をテーマにエコプロ2018に出展しました！

「エコプロ2018–SDGs時代の環境と社会、そして未来へー」が、昨年12月6日～8日の3日間、東京ビックサイトにて行われました。全国ネットは、SDGsに“フォーカス”した地球温暖化写真のパネル展示や、教材プログラムの体験・展示を行いました。また、地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞者39団体の紹介及び5つの部門における優良事例の紹介を行いました。特にSDGsの目標の1つである「13 気候変動に具体的な対策を」を達成するためにできることを考えるきっかけを提供することを目的にブース出展を行いました。

会期中の3日間でブースに訪れていた方々はおよそ1,000名。全国センターウェブサイトでもおなじみの「温暖化写真館」から地球の「イマ」を写し出した写真パネル展示では、じっくり見られている方はもちろん、スマホやカメラで撮影する方も。プログラム体験では、今回初お目見えとなったプログラム、エコ×衣+流行=エコモードなファッショントリオ「エコモード☆ファッショントリオ」が大人気。室温15°Cの部屋にいる男の子と女の子に、アウターやボトムス、マフラー、手袋や靴下の小物など、50種類ほどのコロモ(衣)が描かれたフィルムを重ねて(着せて)いき、ファッショントリオを重視しつつ快適な体感温度に近づけていきます。「スカートよりズボンの方が体感温度上がるね」「モコモコのブーツ、ダウンコート、最強！」など、子ども達はもちろん、大人の方までも様々な意見を交わしながら夢中になって体験していました。私たちの暮らしの衣食住のうちの「衣」の部分を、過剰な暖房に頼らずに快適に過ごすきっかけになれば良いと思います。また、エコプロ2018の環境再生保全機構内の地球環境基金ブースにおいては、全国ネットの「学童保育PJ」の事業報告を行い、大変多くの方にご清聴いただきました。

全国ネットは、市民の地球温暖化防止への行動変容へのきっかけはもちろん、各地で活躍する推進員や指導員の方々への支援となり、地域の温暖化防止活動がより一層活気あるものになるよう、今後もお手伝いを続けていきたいと思います。



ブース出展の様子



環境大臣表彰受賞者パネル展示



体感温度は
どのくらい
上がるだろう？



エコモード☆ファッショントリオ



学童保育PJ事業報告の様子

エコアナウンサー 櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「低炭素杯」の司会など。



私も
賛助会員
です！

山々で南天が色づき始めた秋、国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の特別報告書が出されました。今すでに産業革命前より約1°C上昇していて、このままなら2040年前後に1.5°Cに到達、温暖化はせめて1.5°C未満に抑えないと本当に困ることになる、と。

南天が真っ赤になった冬、第24回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP24)がポーランドで開かれました。そこで合意されたパリ協定の指針に沿って各国は脱炭素、脱化石燃料に向かう強化行動を求められました。

頭を抱えたくなるこの状況の中でも、「難を転ずる」べく行動する人達が日本中にいます！地域の問題を自分ゴト化し解決、それが世界の課題と繋がっていることを理解している『低炭素杯2019出場者』の皆さんです。SDGs・パリ協定時代の学生、企業、NPO/NGO、行政などの皆さん、あるものを活用し新しい価値を産み出す低炭素杯に乞うご期待！観覧無料、ぜひお越しください！



難(ナン)を転(テン)ずる南天の実

編集後記

事業Grの岩崎です。今年度は本稿でもご紹介した、COOL CHOICEガイドブック制作や、そのための情報収集、地域センター活動集作成のための活動実績調査の設計、集計、分析などを担当しています。

この業務に携わっていると、環境省や地域センターのさまざまな情報発信や普及啓発の取り組みをることができます。知れば知るほど、実際に行動変容を促すことの難しさを感じます。そんなとき、効果的な手段として関心を持ったのが、行動経済学です。人の行動を無意識のうちに変えてしまったり、思わずこちらの意図した行動を実践させたりする工夫が、科学的に実証されています。

実は、COOL CHOICEガイドブックにも、行動経済学で効果的とされる手法のうち、簡単なものをいくつか取り入れています。読んでみると、思わず実践してみたくなるかもしれませんよ。

事業グループ 岩崎 慶太



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください！

年会費：個人会員1口 5,000円(1口以上)
団体会員1口 20,000円(1口以上)



【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100

<http://www.zenkoku-net.org/>

